

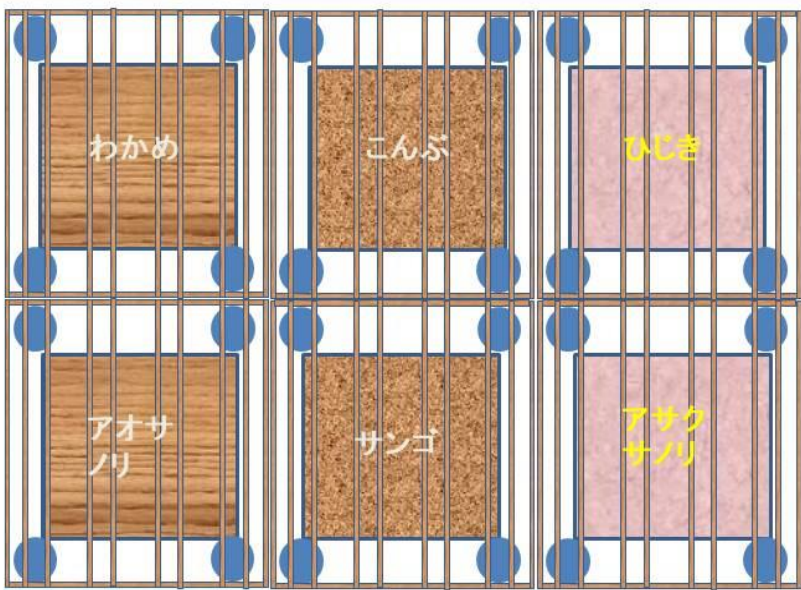
木造人工島による、海産物の養殖化は、世界の食文化を一変させる

ワインを水中で保管すると、とても美味しいらしく、伊豆沖では事業化も開始されているようです。→「Venus プロジェクト」

木造人工島では、「Venus プロジェクト」のようなワインの貯蔵も安全に行われ、人工島間や人工島の下側に広範囲なネットを張り、魚が広範囲で回遊が可能なような養殖場をつくることができますが、各種の海藻類を養殖することができるので、(魚を捕獲することは制限されますが)むしろ木造人工島により、海産物が食文化において、拡大をしていくと考えています。

海産物のコストが低下し「肉類→魚類」&「野菜→海藻」の比率が変わるとみっていますが、いままで自然採取で潤ってきたところでは、人工島&養殖ビジネスへの転換がいやがおうでも迫られることや、人工島によって近海の漁場が失われるので、同様に各種魚の養殖ビジネスへの転換が迫られます。(よりコストが安い養殖ビジネスが、漁獲ビジネスを駆逐する方向ですが、自然環境保護にもつながるので、また CO2 削減にもつながるので、よい方向です。)

□12mの人工島ユニットごとに、□8~10mの「養殖ユニット」を設定し、4本のワイヤーで吊り、エンコーダー付帯のモーターで最適な深さ制御を行う。

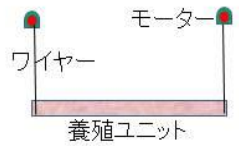


浮遊型木造人工島での養殖では、その地域の天候や海水温により AI自動管理システムが、各種海藻の最も適する深さで栽培する。



もし世界の9%の海面において海藻類の養殖ができるとすると、毎年530億トンの二酸化炭素を大気中から削減できると試算されます。

養殖ユニットの4か所をワイヤーで吊りし、エンコーダー付帯のモーターで巻き取り、高さ調整を行う。



AI自動管理システムで、季節や天候・海水温により、最適な深さで育成し、また収穫時には、海面近くまで引き上げ、潜らなくても収穫できるようにする。(人件費の大幅削減)

世界各国の海に面している市町村では「木造人工島+潮流発電+ツリー型」にて、再エネ 100%になり、また「木造人工島+魚の養殖+海藻の養殖」により食文化の変化があり、地産地消&自給自足にかなり近づくとみえています。

内陸部の市町村でも、大規模なダム湖を増やし、（細かい計算ができず、明言はできませんが）「木造人工島＋潮流発電＋ツリー型」と「木造人工島＋淡水での魚の養殖及び水中食物の栽培」によって、トータルコストが減少した上で、地産地消&自給自足の方向性があるとみています。（木造人工島に設置の各種再エネ機器は、土台の構築が不要になり、ダム湖を作っても、尚コストの低減効果が大きいと考えています。）

以上、木造人工島の効用は、

1. 「木造人工島＋潮流発電＋ツリー型」によって世界の温室効果ガス±0を2050年よりも前倒しで達成することができる。
2. 「木造人工島＋魚の養殖＋海藻の養殖」により、世界の食文化を「肉→魚」「野菜→海産物・淡水産物」にシフトし、地産地消&自給自足に近づける。
3. 木造人工島での「海産物・淡水産物」の養殖により、光合成が増加し、CO2そのものを削減できる。
4. 木造人工島での「潮流発電＋ツリー型」の豊富な電力を利用して、海水を淡水化しての「水耕栽培」又は塩水でも育つ品種の野菜（*）を開発する。
5. 木造人工島間での潮の流れを狭く（速く）し、そこで海洋ごみを収集することで、（ごみがある程度溜まったら、ロボットによって、人工島上の収集BOXに自動で入れる。）海の浄化にも貢献する。

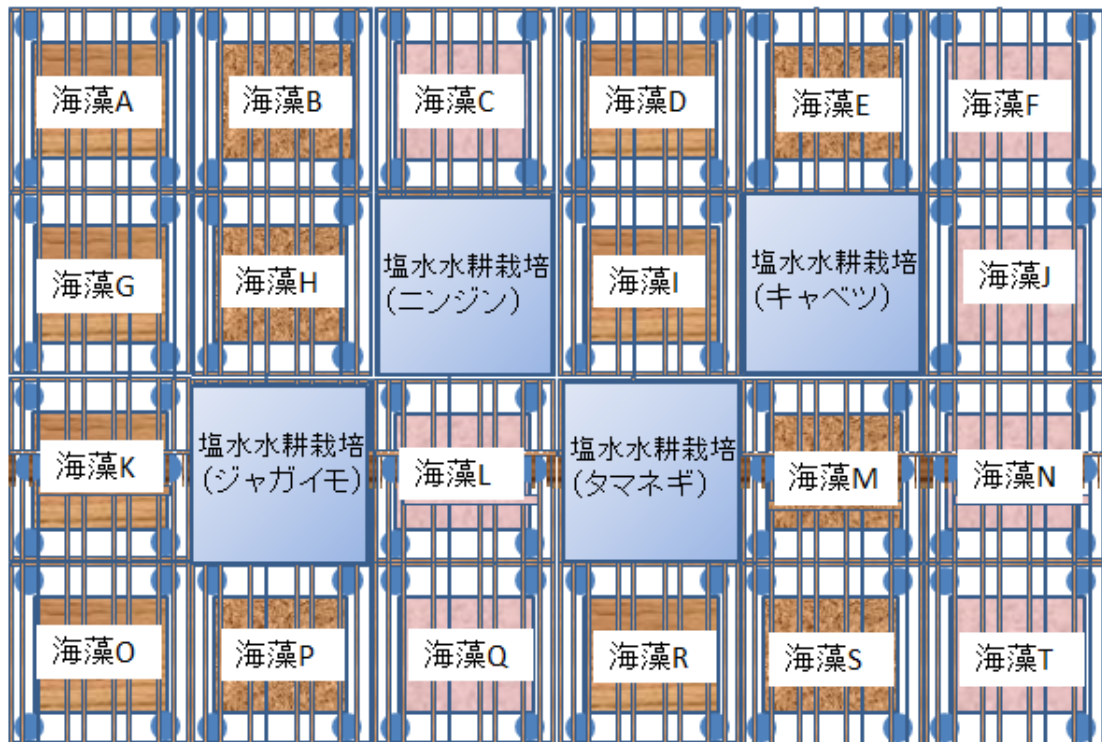
（*）塩水水耕に関して、

地球温暖化に起因する海面上昇によって、世界中で10億ヘクタール以上もの農地が塩害を受けているといわれています。海面上昇によって海水が地下水面に浸透すると、海岸線から離れた内陸でも地下水が塩化します。一度洪水や高潮などで海水を被ってしまった土壌は塩害によって農業が困難になります。

ご参考情報：オランダのSalt Farm Texelでは、以下の取組をしています。

品種・塩分濃度・作付け時期などの条件を細分化して実験を重ねることで、塩水や塩化土壌にも適応したジャガイモ栽培法を確立しました。現在はジャガイモに加えて、ニンジン、タマネギ、キャベツ、大麦などの実験を進めているとのこと。日本でも、木造人工島の出現で、塩水水耕栽培が加速する。）

＜塩水水耕栽培の拡大＞



□12mの木造人工島ユニットの連結強度が維持されるようにしながら、塩水水耕栽培のエリアを設定する。将来、コメや麦の塩水水耕栽培を実現していく。



まだ研究途上ではあるが、塩水水耕栽培では、ジャガイモの成功例があり、ニンジン、タマネギ、キャベツなども実用化目前と言われており、すべてのものは海から生まれたことを考え合わせると、今後の主流となるべく栽培法であろう。

海藻のおもな役割

光合成によって、CO2を削減する。



酸素と栄養をつくる

水をきれいにする

すみか・食べものになる